

俳句入門講座

やまだみのる

目次

1	はじめに	2
2	俳句を始めるのに必要なもの	2
3	季語について	2
3.1	季語とは	2
3.2	どんな歳時記を買えばいいの？	2
4	まずは作ってみましょう。	3
4.1	伝統俳句と自由律俳句との違い	3
4.2	最低限のお約束	3
4.3	考えて作らず、感じて作る	4
4.4	作りながら覚える	5
4.5	添削指導を受けましょう	5
5	インターネット句会を活用しましょう	5
5.1	勇気を出して投句しましょう	5
5.2	選句の練習を始めましょう	6
5.3	今週の秀句で復習して選句力を育てましょう	6
6	早く上達するために	6
6.1	学びのための基本姿勢	7
6.2	たくさん作って、たくさん捨てる	7
6.3	良い作品をたくさん読んで、鑑賞力を身につける	7
6.4	外へ出かけて作りましょう（吟行すると言います）	8
7	本格的に勉強したい方へ	8
7.1	わたしのケース	8
8	更新履歴	9

1 はじめに

このテキストは、俳句を始めたいけど・・・と躊躇しておられるあなたのために、ぜひ、俳句の楽しさと出会っていただきたいと願って書いたものです。

どうか最後まで読んでみてください。そしてこのホームページにあるわたしの作品にも目を通してみてください。きっと、俳句の楽しさ素晴らしさに出会っていただけると思います。

2 俳句を始めるのに必要なもの

俳句を始めるために、まず必要なものは、

- 書くもの - 鉛筆、シャーペン、ボールペンなど何でもいいです。
- 句帳 - メモではなくて小型のノートがいいです。余った手帳が転がっていませんか。
- 国語辞典 - 50,000 語くらいのもの。

この三つだけです。このほかには、歳時記または季寄せがあれば申し分ないですが、国語辞典でも代用できますから必須ではありません。

歳時記のことは、次の章を読んでから考えることにしましょう。

3 季語について

3.1 季語とは

季語というのは季節を感じさせることばのことです。

春・夏・秋・冬というのも季語ですし、一月・二月・・・というのもそうです。ちょっと探せばわたしたちの生活の周りにたくさんありますね。明確に季節感が感じられることばなら何でもいいのです。野菜・果物などは温室栽培やバイオ技術で、また魚などは養殖によって量産され、季節感が失われつつありますが、本来の自然環境で収穫できる一番美味しいとされるとき、いわゆる旬という時期が俳句では季語として扱われます。

季語の種類や意味を詳しく調べたり、その季語を使って作られたサンプルの俳句（例句といいます）など見たりするために編集されたのが歳時記です。

3.2 どんな歳時記を買えばいいの？

携帯に便利な小型サイズのものから、カラー写真や詳しい解説、また例句もたくさん載っている大型のものまで、いろんな種類の歳時記が発売されてい

ます。では、どんな歳時記を買えばいいんでしょうか？無責任な言い方に聞こえるかもしれませんが、とりあえずは何でもいいと思います。もし家人や友達のお古がいただけるならそれで十分です。どうしても新しいのが買いたいという人は遊浦 (<http://www.uinet.or.jp/ufo/shiryō.html>) というサイトの資料室に詳しい情報がありますので参考にしてください。

徐々に熱が入ってきて、俳句のことが少しずつ分かってくと、自分にはどんな歳時記がいいのかが分かってきます。また、歳時記の編集者によって師系が異なるので、載っている例句の傾向も違います。五年、十年と俳句を続けていれば、そのうちほとんどの歳時記が手元に揃うでしょう。(笑)わたしも、そうでしたから…

4 まずはお作ってみましょう。

4.1 伝統俳句と自由律俳句との違い

ゴスペル俳句が提唱しているのは伝統俳句です。伝統俳句は有季定型といって、必ず一句の中に季語を必要とし、調子も五・七・五に整え、原則として歴史的仮名遣いを用います。ただ、最近は口語俳句というのも支持されるようになってきましたので、これは絶対ではありません。

俳句のジャンルには、有季定型の伝統俳句に対して、自由律俳句というのがあります。これは、一句の中に季語はあっても無くてもよく、また、調子も五・七・五に制約されず全く自由です。約束ごとや制約に縛られずに自由な表現をしたいという思想なのです。有季定型の伝統俳句に飽き足らなくなった人たちが派生的に生まれたジャンルで、有名な作家に種田山頭火や尾崎放哉などがいます。誤解して欲しくないのですが、ゴスペル俳句では、このような自由律俳句を決して異端視しているわけではありません。自由律の中にも共感できる作品はたくさんあります。確かに今の時代に、制約の中で句を作ることは古い体質かも知れません。でも、自由だから新しいともいえないと思うのです。

温故知新ということばがありますが、伝統的な要素を尊重し、いろんな制約を克服しながら、さらなる新しさを追求していくことに、わたしは喜びを感じるからです。

4.2 最低限のお約束

俳句を作るための約束事はたくさんありますが、最低限守らなければならないのは、次の二つだけです。

- 五・七・五でつくる
- 季語を一つだけ入れる

そんなことは言われなくても判っている・・! 失礼しました。では次の作品を見てください。

昆陽池に鴨がたくさんおりました

季語(鴨)も入っているし、ちゃんと五・七・五になっていますね。でも、これは俳句ではありません。なぜ!!!???

この句のどこに感動があるのでしょうか。これを読まれたとき、あなたはどう感じましたか? 「ああ、そうですか・・」というほかはありませんね。これはただの「報告」です。では、次の句はどうでしょう。

夕日落つ土手のコスモス揺れやまず

「こんな情景どこかでみたことあるなあ～」と、感じられた方はいないでしょうか。

もし、たったひとりでも共感してくれる人がいればそれは立派な俳句なのです。じつは、これは僕が俳句を習い始めたころ、はじめて先生の選に入った句です。

感動した情景を、スケッチブックに絵を描くように、ことばで写生する

これが俳句作りの基本です。ことばにするまえに、驚きや感動、心のひびきが大切なのです。

4.3 考えて作らず、感じて作る

芭蕉は、俳句は三歳の子供にもわかるように作りなさいと、弟子たちに教えました。

日本でも、子供俳句といって、子供たちに俳句の心をつたえる働きをしている指導者もいらっしゃいます。素朴で、純真で、とても感動的な作品がたくさん生まれています。子供たちは決して知識に頼んだり理屈で考えたりしては作りません。ただ、心に湧いた感動を、驚きを素直にことばにしているだけです。

幼子たちの素朴なことばや表現に思わず微笑んだり、感動されたりした経験はどなたにもあるでしょう。神さまは私たち人間に、生まれながらにして感性や好奇心を備えてくださっているのです。だから、子供たちはあんなに無邪気に感動したり、どんなことにも興味を持ったりできるのです。わたしたちの幼いころも決して例外ではなかったはずですが、では、わたしたちにもあったはずの感性や好奇心はどこへ行ってしまったのでしょうか。わたしたちは、日々の生活の忙しさや世の中の俗事に心を奪われて、感じるということを忘れてしまっているのです。この置き忘れてきた「感じるころ」を取り戻すために俳句を詠むのです。

4.4 作りながら覚える

入門書を山ほど買ってきて、読み始める方がいらっしやいます。でも、はっきり申しあげて、それは挫折への道です。余計な知識があると、かえって素直になれず進歩を遅らせます。作りながら、経験を重ねつつ自然に覚えていくのが、上達への一番近道であることを明言しておきます。

何も心配せず、安心して楽しみながらこのホームページで学んでください。騙されたと思って、一年間我慢してわたしとつきあってみてください。必ず、俳句作りの喜びと感動する心とをあなたは手にされるでしょう。

4.5 添削指導を受けましょう

いくら句を作っても作りっ放しでは意味がありません。また自分にしか理解できないような独りよがりの句や、見てもいないことを想像して単なる自己満足の句を作り貯めたりしても何の価値もありません。嘘を書き連ねた日記に意味があるかどうかを考えてみてください。俳句は、小説、エッセイ、詩などと同じように立派な文学なのです。ですから、鑑賞する人に感動や共感を与えなくてはなりません。他の人から共感を得られたときに初めてその作品の価値が見出され、作者としての喜びや充実感を見出すのではないのでしょうか。

でも、いきなり佳句を作ることは難しいですから作られた作品はまず、添削掲示板に書き込んでください。

作品は自分で取捨選択しないで全部見せてください。なぜなら、初心のうちには作品の良い悪いが自分で見分けられないからです。掲示板で公開されるのは恥ずかしいと思われる方もおられるでしょう。でも、俳句は自分自身をさらけ出す文学です。恥ずかしいという気持ちがある間は素直な作品を作ることはできません。掲示板で公開指導することで他の初心者の方にも参考になりますし、私自身も ”無責任な指導はできない ”からです。

誤解の無いように繰り返しますが、添削指導は一切無料です。どうぞ、安心して利用してください。

5 インターネット句会を活用しましょう

5.1 勇気を出して投句しましょう

作品ができたら、それが他の人にどれだけ共感してもらえるかを確認してみたいですね。勇気を出して句会へ投稿してみましょう。

毎日句会はいつでも自由に投稿できます。添削指導を受けた作品は原則として全部ここへ投稿して下さい。自分の作品が他の人にどんなふうに入れられるかを知るのはとても励みになります。

5.2 選句の練習を始めましょう

また投稿作品の中にあなたの気に入った作品があったらぜひ選句もしてください。こうすることで互いに自分の作品を他の人に評価してもらえるシステムなのです。

句を選びあうことを互選するといいます。互選では自分の作品を選ばないのがルールです。力をいれて作った自信作はあまり他人には評価されず、なんでもない軽い気持ちで作った作品のほうが案外たくさんの支持を獲得する。俳句とは、そんなものなのです。

毎週末には投稿された全作品をわたしが平等に再評価して選び直し、今週の秀句というページに発表されます。ぜひ一度、このページもご覧になってください。

5.3 今週の秀句で復習して選句力を育てましょう

その人にどのくらい作句力が身についたかということは、その人の選句傾向を見ると大体分かります。つまり、選句力は作句力の裏返しというわけです。自分の選と他の人の選、また「今週の秀句」の結果とを比較学習することで、自分なりの上達程度を見極めることも出来ますし選句力の向上にもなります。特に今週の秀句の結果を復習することはとても重要なことなのです。

インターネット句会は毎日句会のほかに月1回決まった日時で開催される月例会句会があります。毎日句会への投句や選句になれてきたら、次のステップとして、ぜひ月例会句会に参加してください。俳句は座の文芸ともいわれ、句会という社交場で互いに存問（安否を問うという意）しあうことに本当の愉しさがあります。

談話室で気のあった仲間と俳句談義に花を咲かせて、励ましあったり慰めあったり楽しい交わりが出来ます。ときには、俳句を離れた話題で盛り上がっても勿論いいわけです。そうした社交場としてこのホームページや掲示板が用いられることが、私の望むところであり、またそうなるようにと祈っているのです。

6 早く上達するために

”どうしたら早く上達できるでしょうか？”方法はあります。

わたし自身の経験からいくつかを紹介しますので、信じて実行しましょう。効があるか否かは薬と同じです。(笑) このページよりもっと詳しく知りたい方は、別掲の[上達への近道]のテキストを読んでください。

6.1 学びのための基本姿勢

毎日句会では一週間単位で全投稿句をわたしが平等に再選して「今週の秀句」として発表します。今週の秀句で再選される作品は互選の結果とは全く無関係です。互選で誰一人選んでくれなかった句でも選ばれることがありますし、逆に互選で高得点を獲得した作品でも、選ばれない(“没になる”といえます)こともあります。

互選のメンバーには上手な人もあれば未熟な人も混じっています。ですから句会での高得点の句が必ずしも佳句であるとは定義できません。これは月例句会でも同様のことが言えます。もっともわたしの選が絶対とも言えませんがこれは信じていただくほかはありません。

句会のあとで没になった自分の句のどこがどういう風に悪いのか説明してくれと、選者に食い下がる人がよくいます。いくら互選でたくさん支持されても駄目なものは駄目とわりきるしかありません。この切り替えがうまく出来ない人は、仮にどんな立派な先生に学んだとしても不満を言うでしょう。

選者を信じられなければその人に学ぶ意味もありませんし、指導する側もまた空しいものです。学びというのは師弟双方の信頼関係によって成り立つものです。教える方も学ぶ方もお互いに真剣勝負だということを認識して励みましょう。

6.2 たくさん作って、たくさん捨てる

できれば一日に10句、最低でも3句くらいは作ってどしどし添削を受けましょう。投句数の制限はありません。

添削指導で のつかなかった句は無条件に捨ててください。没になった作品にいつまでも未練を持つタイプの人がよくいますが、そんな人はなかなか上達しません。一句一句にこだわる癖がつくと、指導を受けても素直に受け入れられないので進歩が止まるからです。

6.3 良い作品をたくさん読んで、鑑賞力を身につける

わたしも不調になったときには、しばらく作句を休んで先生の作品集などを読みます。不調のときは感性の歯車が狂っているので良い作品を読んで軌道修正をするのです。このホームページの「秀句鑑賞」や「作品集」のページはこの目的のために設置しています。良い作品を正しく鑑賞することは偶然ではできません。

”鑑賞力を養うこと”これが上達への近道です。

6.4 外へ出かけて作りましょう（吟行すると言います）

家の中で歳時記と首っ引きで俳句を作るのは正しい作句法ではありません。上達してくれば家の中の身辺雑事からでもよい作品が生まれることもありますが始めは無理です。

外へ出かければ変化があるので驚きや感動に出会いやすいからです。電車や車で出かけなくても散歩でいいのです。同じ俳句仲間と出かけて行って、時間を決めておいて小句会をするのも楽しいものです。

7 本格的に勉強したい方へ

あなたがこのホームページでの学びを通して俳句の楽しさを発見し、

- 一生の伴侶として俳句と付き合いたい
- 自分の作品を後世に残したい
- もっと専門的に学びたい

という思いが起こされたなら、どうか俳句結社に入会して、本格的に結社の先生の指導を受けてください。それは一日でも早く決断したほうが良いと思います。

7.1 わたしのケース

俳句結社はたくさんあります。俳句関係の月刊誌を一冊買ってくれば全国各地の広告が載っていますので、ここと思うところを選択されるといいでしょう。わからなければメールで相談してください。わたしも始めは何もわからなかったので、

- 広告サイズが大きいのに誌代が安い（営利目的でなく信頼感がある）
- 自分と同じ地域の結社である（直接指導を受けられ可能性が高い）

という理由だけで、ひいらぎ (<http://www1.u-netsurf.ne.jp/~hiiragi/>) を選びました。

後日になって先生にこのことをお話したら大笑いされましたが、あながち間違いではなかったと自負しています。プロフィールにも書いていますが不思議な縁を感じます。もし、あなたがこのサイトを卒業して本格的に学ぶ道を選ばれるなら、それは私にとっても望外の喜びです。

8 更新履歴

- 2001年3月17日、PDF版を公開
- 2001年1月6日、一部追稿、フードバックを追加
- 1999年5月10日、公開